

特集

山河と 共にある村



雄大な外輪山と阿蘇五岳、東から西へと流れる白川、合流していく黒川…ふるさと南阿蘇村の豊かな自然は、私たちの生活と深く結びついています。
恵みをもたらし、時に災害の危険性をもつ山河。大切に身近な自然だからこそ、よく知ること、備えることが必要です。

立野ダム 村民現地見学会



▲立野ダム建設予定地

実際に現地へ行って、見て、歩いて

6月17日、村主催の立野ダム村民現地見学会が実施され、当日は事前に申し込んだ村民92人が参加。5台のバスで立野ダム建設予定地へ向かい、ダム建設予定地や仮排水路トンネルを見学しました。



▲ダム建設中に川の水が通る予定の仮排水路トンネル



▲意見交換時には質問や要望、様々な意見が活発に交わされました。



現地では、国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所の安田技術副所長が、ダム事業の概要や現在の工事状況などを説明。また、役場建設課長からは立野ダム建設に伴う村地域整備計画の状況などについて説明がありました。
丁寧な説明を継続していく
現地見学の後は立野ダムコア倉庫へ移動し、事業説明会と意見交換が行われました。
参加した住民からは様々な意見や質問が出され、吉良村長は、「立野ダムについて、まだよく知らないという人、不安を抱えている人もいらっしやると思う。ダムがどのようなものか知ってもらうために、今後も丁寧に説明や見学会を続けていきたい」と述べました。
立野ダム現地見学会は、今後とも継続していきます。お問い合わせは建設課まで(TEL)67-3178)

立野地域防災避難訓練



①地図で対象地域の世帯を確認 ②消防団員、警察署員が各世帯の避難誘導を実施 ③避難所で受付をする住民の皆さん ④役場住民福祉課による区長の皆さんへの避難所運営説明

想定される大雨、どう動くか

6月17日の午後、立野地域で防災避難訓練が実施されました。

今回の訓練は大雨を想定したもので、長期避難が解除されて立野地域に戻られた住民が対象。大津・高森警察署員や村消防団員、各区長、役場職員など100人以上が避難対応の訓練にあたりました。

午後2時、防災無線で大雨による避難を促す訓練放送が流れると、各人員が連携を取りながら避難誘導と避難所開設を行い、実践的に訓練を行いました。

避難所までの経路や避難方法を再確認

新所、立野、立野駅区の住民は、防災無線や、消防団員・警察署員の呼びかけを受け、避難所として設定された旧立野小学校体育館まで避難。避難所の入口では各地区の区長が避難者の受付を行いました。

訓練に参加された住民の中には、「普段は車で通るけれど、今日は歩いて道を見てきました」と話す人も。

3つの区全体で50世帯92人が参加し、それぞれが自宅から避難所までの経路をあらためて確認しました。

迅速で円滑な避難のために

訓練に参加した区長の皆さんは、非常時の円滑な避難所運営方法を確認。役場住民福祉課職員による説明に耳を傾け、まとめられたマニュアルを熱心に読み込んでおられました。

訓練終了後には、消防団員、警察署員、役場職員による反省会が行われ、改善点などの確認がありました。

今回の避難訓練を終えて

まずは避難所まで逃げるのが一番。どのように避難するか、普段から訓練しておくことが大切です。

避難訓練は年に数回の機会ですから、住民の皆さんにはぜひ参加してもらって、避難の確認をしてほしいと思います。

(立野区 上村健 区長)

